2019年度　社会福祉法人あゆみの会　オープンスペース‘AYUMI’事業報告

（生活介護事業・就労継続支援事業B型・日中一時支援業・短期入所事業）

久永　洋

【生活介護事業】

・新規利用者2名（2019年4月～特別支援学校卒業生1名）

（2019年11月～他施設より1名　週2日通所）

・退所利用者　なし

軽作業班

●利用者　15名（うち2名就労継続支援事業B型）　職員9名（パートタイム勤務も含む）

利用者は、園芸班より1名軽作業班へ異動となり1名増員してスタートする。作業活動においては、内職作業を中心に日々の作業活動を実施する。昨年同様、作業場所の明確化や長所を活かした作業の提供等を行う。また、必要な利用者へは、絵カードコミュニケーションツールの活用、感覚的なしんどさのある（視覚、聴覚）利用者へは、机や椅子の配置を変更したり、イヤーマフを着用したりと工夫しながら作業提供を行う。2019年度途中からは、個別ワークスペースを2階に移動し（環境調整の為）、支援方法もより個別に配慮した形で実施する。

様々な内職作業に取り組むことや内職以外の活動を通して、やりがいや達成感、楽しみにも繋がり、前向きに日々の作業活動に取り組む姿があった。

手工芸

●利用者　14名　職員6名（パートタイム勤務も含む）

紙漉きを中心に日中活動を実施する。今年度はカレンダー作成を中止し、和紙商品（papier）等に力を入れる。また、フェルトボール作成も引き続き行い、作業の幅を持ってやりがい、達成感に繋げていった。また、作業以外にも施設外活動を取り入れながら、楽しむ時間やリフレッシュする時間を作り、メリハリある活動を実施する。

集団を大切にしながら個別的な配慮として、スケジュール、トークンボード、絵カード等も取り入れ、一人ひとりの理解に繋がり、見通しを持って過ごせるよう丁寧な関わりを心がけた。

園芸

●利用者　11名　職員8名（パートタイム勤務も含む）

新規利用者（特別支援学校卒業生1名、他施設より2019年11月～1名）2名増員、軽作業班へ異動で1名減員となり、2019年度をスタートする。大幅な作業活動の変更はなく、畑作業や内職作業を中心に作業や活動を実施する。また、昨年度よりも畑作業に力を入れ、季節の野菜の栽培にあたる。夏場の異常気象（猛暑）により、園芸作業が十分に提供出来ないという課題もあったが、内職作業において出来る作業も増えていき、やりがいや自信、達成感へ繋がった。また、利用者同士の関係性もより一層深まり、コミュニケーションを図りながら協力して活動を実施した。

昨年度の課題であった男性職員の人手不足であったが、週2～3日男性職員2人を配置し、トイレや着替え等の支援、介助を行った。

　季節に応じて、畑へ出る機会が増えたり、気候的に厳しい時は内職作業に取り組んだりと動きのある活動を展開。また、自分たちで栽培した野菜を試食し、栽培への楽しみに繋がるよう作業活動を実施した。

【就労継続支援事業B型】

・新規利用者　なし

・退所利用者　1名

秋篠パン工房

●利用者　13名（うち2名軽作業班所属）　職員5名（パートタイム勤務も含む）

　利用者の減員、増員はなく、2018年度に引き継いだ形でのスタートとなった。年度途中に、1名の利用者が退所され（はっきりとした理由はわからず）減員となる。利用者数が少ない状況ではあったが、パンの製造量やバリエーションを増やしながら、売り上げの向上を図る。出勤率に関しても2018年度と横ばいの状況。その他の作業活動（販売、配達等）は継続し、工房、喫茶以外での作業を提供した。

　利用者が自ら進んでそれぞれの持ち場で作業を行い、各々任された仕事を集中して取り組み、作業の時間、休憩の時間とメリハリある作業を継続した。スキルアップ、働く意欲の向上に努め、取り組める作業の幅を広げていった。

　商品開発等も季節に合わせながら、工夫しパンの種類を増やしていく。ホテル、レストラン、幼稚園等への受注も継続しながら販売、配達業務に取り組んだ。

【日中一時支援事業】

主に一般就労者が利用する事業となり、仕事のない日の来所や相談事があった時の来所等、利用者に合わせた事業を実施する。慣れ親しんだ職員や環境の中で仕事での悩みややりがいを話し、久々に会う仲間とのふれあい等でリフレッシュ出来るよう働きかけた。

【短期入所事業】

　2018年度の一時休止や職員アンケートを踏まえて男女月1回ずつの実施となる。また、宿泊職員に関しては業務負担を考慮し、16時出勤、翌日9時退勤とする。変わらず、事業の需要や必要性は高く申し込みが多く、キャンセルすることも度々あった。

　利用者自身は、料理や外食を楽しみにし、自宅ではなく仲間と過ごす一日を楽しんでいる様子があった。また、レスパイト的な要素もあり、ご家族の介護負担軽減を図りながら、宿泊経験を積めるよう事業を実施した。緊急短期入所利用（冠婚葬祭等）についてもその都度相談の上、対応した。

【総評】

　例年同様どの事業においても、生きがいややりがい、楽しみ、達成感等を持てるよう作業や活動の提供を行った。また、班会議や個別支援計画会議、事業会議の充実に努めながら、多面的に多角的に支援や本人の思いに寄り添っていけるよう、日々の支援を行った。

　地域交流や外部研修等も例年通り実施し、風通しが良くなるよう心掛けた。その中で外部からの見学者も多く、あゆみの会を知ってもらう良い機会ともなった。

2019年度もあゆみの会の理念やわたしたちのこころえを大切にしながら、支えあう仲間の関係を築き、プラスαで専門的な特性理解や支援ツールの作成等を入れながら、より一層暮らしが楽しく、充実出来るよう日々の支援や活動を実施した。

以上